

# ★神戸の集いから

★創立40周年を迎えた  
行吉学園

10月22日、神戸女子大学、同短期大学などで女子教育に貢献してきた行吉学園（行吉哉女理事長）の創立40周年を祝って記念式典が神戸国際会館で開かれた。行吉理事長のあいさつの後、小笠原副知事らが祝辞関係者多数に感謝状や表彰状が贈られた。



喜びの行吉理事長に関係者



テレス氏を囲んで

参事官として着任6カ月のセルジオ・テレスさんが、

10月3～8日、神戸そごう美術画廊で玄人はだしの美術展を開催し、日伯美術親善につとめた。パリ着任中の風景画や人物像、ブラジル風景など明るい色調とナイヴな感覚がこころよい画面。「日本人の芸術にとりくむ姿はとても素直で素晴らしい」と、神戸の藤塚領事らと歓談。「オブリガド！」となごやかなオーブンングパーティーだった。

★小松益喜画伯喜寿を祝う

いごっそうと異人館今年、喜寿を迎えた異人館画伯の小松益喜さんを祝う会が、北野の六甲荘で10月20日に開かれ約150名近い人が集まった。

小さな身体に、元気のない



小松益喜ご夫妻

式典後、京都大学数内清名誉教授が「学問のすずめ」の記念講演。翌23日も陳舜臣氏「シルクロードの旅」渋谷陽一氏「ロック・ミュージック進化論について」の講演が同会館で行われ、県下の私学関係者、卒業生、在学生など約千五百人が集まった。

★ブラジル大使の美術親善  
東京のブラジル大使館に

い大声はこの日一段と高く「いごっそうと異人館」の関係は50年間続き、神戸を愛する意気ますます盛ん。とき夫人も共産党兵庫支部の名譽顧問として活躍され金婚式を迎えられた訳。

司会は斎藤秀夫さん。橋崎近代美術館長は「山本通で生まれ育った私にとって風景が変わった今も懐しい思い出。神戸にはなくてはならぬ存在。米寿まで頑張って下さい」とメッセージ。よさこい節が飛び出す賑やかな会となった。

★ヤマギワの「あかり展」

陶芸十あかりの文化丹波焼市野弘之さんの陶芸を使ったヤマギワオリジン



市野さんを囲んで

作者の市野さんはじめ詩人の小林武雄、神戸新聞の伊藤誠や人形作家の畑マス子手芸家の服部清美、デザイン師の藤谷明正、鈴木照三、前店長の斉藤さんらが集まって、あかりと陶芸との素晴らしい調和を楽しんだ。

ヤマギワの安藤店長はこれからも工芸を照明に生かしたオリジナリストランドを作っていくたい、と新しい照明文化に意欲的だった。

## ♥小泉パーティご案内

小泉パーティは、結婚を希望する男女にお見合や愛好会によって健全なご交際のお手伝いをいたします。身元の確かなことは良縁の第一条件です。身元の確かな方々の会員制の集いです。

・入会金 10,000円・年会費 10,000円

神戸マリッジへ（無料）

楽しいご婚礼のお買物をご予算に応じてプランニングし、神戸の一流の専門店をご紹介します。

＜協賛店＞

家具の江戸屋・宝石のタジマ・ふとんのつゆき紳士服のニッケショールーム・和装のみよしや旅行の日本旅行・他各種の専門店

小泉パーティのご案内・入会書類ご希望の方は事務局 〒650 中央区江戸町100 高砂ビル510 078-392-0200 小泉正巳まで

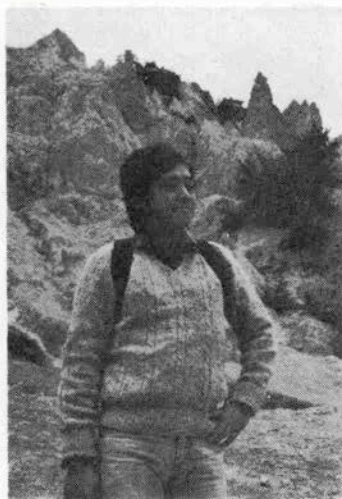
・六甲山100コース

〈その51〉

宝塚―しるべ岩―蓬莱峽―座頭谷―棚越新道―塩尾寺―宝塚

# 伝説の谷と心象風景

今林 宏行〈レコード評論家〉



蓬莱峽入口にて筆者

バスも出ているのだが、待ち時間が惜しくて、歩いてしまった。ようやくしるべ岩のバス停まで来た頃、ちょうど乗るはずだったバスが来たのだから、何が惜しいのか、よく判らないが……。

このバス通りに沿って、碎石場が多いせいか、ダンブが我がもの顔で、飛ばして行くのには肝を冷される。こうして、伝説のある山々が切り崩され、いよいよ見る影もなくなってしまうているのは、ひどく寂しい思いがした。

しかし、そうやって自然を破壊しているのは私を含めた、我々自身なのだ。自然を愛するかたわら、我々自身が自然破壊に手を貸している、あるいは、そうせざるを得ないことを認めなければなるまい。

さて、しるべ岩から河原におり、川に沿って十分ほど上流に向うと奇怪な風景が、ひらけて来る。そこが蓬莱峽である。

連なる尖鋒の群に、軽い目まいを覚える。異様な景観が見る者を圧倒する。

驚きと、興奮で、小一時間も過こした。後髪を引かれる思いで出発し、もう一度ふり返って見ると、まるで空をつきぬけるかのような幾重にもつらなる尖鋒。その風景にはきつと、星空が似合うにちがいない、ふとそんなことを思った。その時なぜか私が幼い頃、近くに、いつでも星が見えると言っていた少年がいたことを思い出していた。ひどく無口な子だったが、みんなけんちゃん

山を人生に喩えることがよくある。立山のような険しい山でなくとも、その喩えようは、成程と思わせる時がある。

自然から遠ざかってしまった我々は、人生そのものを見誤っているような気がしてならない。なぜなら古今、人は自然を通して人生の実相を見て来たと思われるからである。

こういう、つまらぬことを考えながらの六甲ハイキングである。妻と二人というのも何だからと、いつも山を歩く時は、無理矢理に友人を引っぱり込むのが我が家の慣例になっている。本日の犠牲者は、日本マンドリン界の第一人者、桑井謙三氏。犠牲者というには、あまりにこやかで、山歩きもまんざらではないらしい。

宝塚から一時間ほど歩くと、本日最初の目的地である蓬莱峽への分岐点である、しるべ岩に着く。宝塚駅から



呼んでいたことだけは憶えている。その頃の私はきっと、いつの日にか彼のように星が見えると、信じていたものだった。

そんな妙に感傷的な気分になったのも、私ばかりのせいではないはずだ。このあたりに、多くの伝説が残されているのも成程と思えるほど、人を魅きつける何かがある。蓬萊峽から、もと来た河原を十分ほど下ると右手に谷が見えて来る。

ここから座頭谷になる。座頭谷のいわれは、江戸時代、ある秋の夕ぐれ、京から来た座頭が、有馬へ行く途中、



蓬萊峽にて同行の桑井さん(左)と今林夫人



この谷に迷い込み、行き倒れてしまった、という伝説だ。それ以来、この谷を座頭谷と呼んだという。そんな話をすると、妻曰く「昔のけわしい山道を、目の見えない人が、しかも夜歩くんで……」それを聞いていた桑井氏が一言、「座頭には夜も昼も同じだろう？」食事しながらの会話。成程と思いつつ、吹き出してしまった。その座頭谷奥からは一気に棚越新道まで、急な山道を昇ることになる。

この山道はなかなか本格的で、山の気分を満喫させてくれる。桑井氏はしきりに「いいなあ……」の連発。思わず笑ってしまった。

その間四十分程だが、見る見る高度を上げ、木立ちの間から時折り山並が見えるたびに視野が広がって行くのは、たとえようもないほど素晴らしい。しかし、ここまで来ると、流石に、肌寒く、じっとしていると、鳥肌が立つ。棚越新道から、東六甲縦走路を塩尾寺へ抜ける。本日、のゴール、宝塚まで、あと一息だ。

△その52▽

六甲山人工スキー場

六甲山100コース

# 白い雪の世界に遊ぶ

三木 靖子△神戸女学院高等学部講師▽



筆者（右）と塚本さん

冬だというのに青空がまぶしい一日、懐かしいケーブルで六甲山に上った。一気に車で上がってしまうことの多い昨今、こんなのにびりした雰囲気も捨て難いものだと、同行の編集部O嬢と、ちよっとした遠足気分である。園内に入ると、丁度週一回の「女性の為のスキー教室」が行なわれていて、経験者クラスでは二十人程が、SAJ公認六甲スキー学校の塚本校長先生の指導の下、色鮮やかな流行のウェアに身を固め、練習の真最中である。スキーとは若者中心のものと思いきや、家庭婦人とおぼしき方々がその大半を占めている。更に驚いたことには、講習終了後も二十分程先生を取り囲み、質問攻めで食い下がるという、恐るべき熱心さなのである。後で先生が教えて下さるには、何でも、家族スキーに行った時一番遅れをとっているのがお母さんで、それを何とか挽回しよう、その後俄然張り切るのだとか。「上手になりました

い」という意欲から遠ざかること久しい私なぞ、足許にも及ばない見上げた根性だと、大いに感心する。

その後も休憩中の塚本先生に伺ったのだが、一シーズンに四十日通いつめた人や、遠くは山口県から来る方があるというお話に、ド肝を抜かれる。（我が国のレジャーもとうとうここ迄来たというべきか、はたまた何とも日本的な光景だというべきか！）全般に受講生は基礎体力のない人が多く、中には遊び半分の人も居るので、そこから辺にジレンマがあるのだが、とにかくどこへ行っても大丈夫のように、安全・基本第一の指導を進めて行きたいと、先生は抱負を語って下さった。因みに、開校はオープン翌週から二月いっぱい火・金曜日、土・日は混雑するのでレッスンは行なわないとのことである。また、一・二月の各一回、三級以下のバッジ・テストも実施されるそうである。

その後、担当の方から、最も興味のあつた雪づくりの話を中心に伺う。二万四千平米という広い園内にいきなり白い雪が出現する秘密は、氷とスノーガンにあるのだそう。十二月中旬のオープン時には、千五百トンの水を砕き、零下一度以下の場合、水と圧縮空気によって十五台のスノーガンがくまなく雪をまき散らす。水をダムに確保しておいたり、氷屋さんが休みになるお正月には予め保管しておいたり、苦労は尽きないようである。スキー場に入るのにお金を払うとは何ともケシカラン、とかねがね勝手に思っていたのだが、氷一トンが一万円、





シーズンになると色鮮やかなスキーウェアの若者の姿が目立つ

一晚スノーガンを動かす水・電気代が十五万円と聞き、頭の中で数字を並べてみると、あの入場料も妥当だなあ何となく納得させられてしまう。三十八年の開園当初はスノーガンだけであつた為、雨や霧に弱く仲々オーブンでできなかったのだが、碎氷機を導入し、五十二年に本格的に敷きつめたプラススノーのお蔭で断熱効果が上がリ、雪の持ちが良くなったとか。一月中旬には雪の状態も安定し、ピークの二月連休時には、何と一日七千人の人数で、その時には貸スキーの行列が入口まで長々と続き、リフト待ちに整理券が出るそうだ。そこまでしてスキーをしたいか!?というのが、スキー狂と自他共に認める私の正直な感想だが、平日の今日は、そんな想像もつかない程ののどかな風景である。係の方も、平日がやはり空いているし、またスノーガンを動かせる時には夜通し雪

を作るので、朝は新雪で本場以上の雪質ですと、胸を張って勧めて下さる。開園から十年以上経ち、随分工夫を凝らして来られたようだが、それでも、シーズン・インと三月中旬の終了時の見極めは難しいそうである。シーズン中はひたすら雪の確保に努め、天気予報と空模様に一喜一憂の毎日だとか。また、ここはやはりビギナー中心で、リフトの速さもゆっくりするといった配慮をしているのだが、近年大衆化してきて、マナーの低下が目立つようだとおっしゃる。リフトの割り込みや、ゲレンデ中央で立ち止まったり登ったりといったことは、どこのゲレンデでも混雑してくると目立つ現象だが、電車に乗る際降りる人をお待ちしてからという心遣いと同様、見ず知らずの他人を念頭に置いて動く、という基本的ルールは、スキーというレジャーの場でも勿論通用すべきことだと、自戒を込めた感想を抱く。

そんな大刀振りかざした感想とは関係なく、眼の前は白い雪の世界。神を恐れぬ仕業である人工雪だが、その白さに変りはなく、戸外の心地よい冷気に浸つてのスキーは、やはり魅力的である。幼い頃、久し振りに雪の降つたゴルフ場で、長靴をはいて大人のスキーを一本だけかついで上り、カンダハのバックケンにしがみついて腹這いで滑つたことが、ふと思ひ出される。まだまだスキー場通いは止められそうにないあと、はしやいだ声の溢れるバスに揺られ乍ら、小さく溜息をついた。



# 青少年

## なんでも電話相談

橋本 明 〈社団法人「家庭養護促進協会」事務局長〉

最近、電話による相談活動が増えてきた。心の悩みを聞くだけでなく、交通情報や生活情報、また行政に対する苦情や注文など何でも電話で相談に応じてもらえるようになった。電話による人生相談のようなものはかなり

前からテレビやラジオなどでもはじめられており、東京や大阪など全国九カ所の「いのちの電話」にも数多くの人たちがさまざまな悩み事が寄せられている。

国鉄三ノ宮の南、神戸新聞会館の東にある神戸市青少年会館のなかにもこの七月から「青少年なんでも電話相談」が始められたので、十月下旬に、相談室を訪問し開始以来三カ月間の状況をお聞きしてみた。

七月から九月までの三カ月間に受けた相談は三四四件で、一日に約五、六件の電話がかかってくる。中学生と高校生からの相談が全体の約六割近くを占め、小学生からの電話も一五％ある。その他大学生九％、勤労者一三％、不明九％となっている。相談者は青少年自らがかけてくることも多いが、小・中・高校生の場合はその子どもたちの親、特に母親が子どものことで相談をもちかけてくることが多いようである。

電話による相談時間は平均二十二分ほど。相談内容は性に関することが最も多く、他に自分のからだのこと、性格、家族のこと、異性のこと、学業の悩み、しつけ、友達、非行、職業、進路など多岐にわたっている。

具体的に事例をあげてみると、

人と話すのが苦痛（高一・女・本人から）

父の財布から一万円とった。怒ったら家出（中二・男・母親から）

難治性てんかん（小一・女・母親から）



青少年からの電話に答える相談員の津久井幸子さん





新しく建設された青少年会館

包茎(高三・男・本人から)

マスターベーション(中三・男・本人から)

性器が小さい(中二・男・本人から)

両親の不和で不良化した(高二・女・叔父から)

強姦された(高三・女・母親から)

男女達のことと叱ると家出した(勤労者・女・母から)

妻子ある人を好きになった(勤労者・女・本人から)

母は看護婦。二才の弟の子守のこと(小五・女・本人から)

ら)

塾をやめたい(中二・男・本人から)

朝、学校へ行く時吐き気や下痢(中一・男・母親から)

女子中学か、公立中学かで悩む(小六・女・本人から)

会社を辞めたい(勤労者・女・本人から)

このような相談を受けて、電話では解決できないような問題は本人や家族を含めて面接指導をし、また他の専門機関の援助が必要な場合は、たとえば、教育研究所、児童相談所、県警のヤング一一番、青少年補導センターなどを紹介してそちらへ相談してもらうようにしている。

ところで、この電話相談を受ける相談員は七名で、一

日二名ずつが交代で担当している。いずれも人生経験豊かな婦人で、婦人大学を卒業した人、カウンセラー、以前電話相談をしていた人など。毎月第一月曜日には事例研究を行ったり、随時専門家による研修も重ねている。

相談員の一人、津久井幸子さん(50)はこの相談室の他に、週一回婦人会館にある「お母さんの電話相談室」の相談員も兼ねている。

「どんな問題でもかまいませんから、恥ずかしがらずにどんどん相談をもちかけてほしいと思います。ただ、いたずら電話は困ります。声の調子や話し方でいたずらかどうかはすぐわかりますので、そういう時はビシッと叱ります」という。

青少年の心の悩みという点、職業の選択や将来の人生設計に関することが多いのではないかと思っていたら、セックスのことが多くてとまどってるんです、という声もあるが、誰にもいいにくい個人的な事柄であるだけに、電話という匿名性を利用して話をしやすいのであろう。東京の「ダイヤル避妊相談室」には毎年一万五千件の電話がかかってくるというから、性の問題についての悩みがいかに多いかがうかがえる。

電話相談だけで問題がすべて解決できるとは思われないが、電話で悩みを訴えているうちに問題のありかが自分自身でも整理され、アドバイスしてもらえることがあっても心の支えになれば電話相談の意味は大きい。

青少年の悩みの良き窓口となるこの電話相談室をこれからも気軽に利用してほしい。

★青少年なんでも電話相談(無料)

開設時間 午前十時～午後四時

(日・月・祝日を除く)

TEL(078) 333-1188

神戸のブティック／ヨシオカ▽

## 神戸靴でお洒落に凝る

吉岡 潔社長に聞く

通称「はき倒れの街」神戸の人は、お洒落の総仕上げともいえる靴に凝る人が多い。またそういう人たちのためのイイ靴屋も多い。その中でも老舗、大丸前にあるヨシオカは大きなガラス張りのウインドウに靴が並んでいて、通る人を楽しませてくれる。今月はヨシオカの社長吉岡潔さんに「はき倒れ」の話を伺った。

――改装されて広くて明るくなりましたね。

吉岡 九月に新装オープンしたのですが、紳士服と婦人靴とに分けて、両面の融合性に苦心しました。そして神戸らしいムードを出せるようにと設計には特に注文をいたしました。昔からいわれる、クラシカルモダンを基調に神戸らしさを強調いたしました。

――ヨシオカは最初はどういう形でスタートされたのですか。

吉岡 大正十三年に、父が神戸で始めたのですが、最初



「ハイカラ神戸を意識している」と吉岡さん



は紳士靴からです。当時からある靴屋はほとんどそうなんです。まだご婦人方は洋装が少なかった時代ですから。――その頃、靴はどこから仕入れておられたのですか。

吉岡 全部自家製で作っていました。十四、五人の職人さんが、一つ一つ手造りで技術を競い合っていました。その頃から神戸の靴は定評があつて、はき倒れの町なんていわれ出したのです。父も天皇陛下に献上の栄に浴したことがあります。

職人さんたちの手造りの靴は現在も続いております。でも後に続く人が少なくなり、ヨシオカとしては何とか残していきたいとは思っているのですがね。

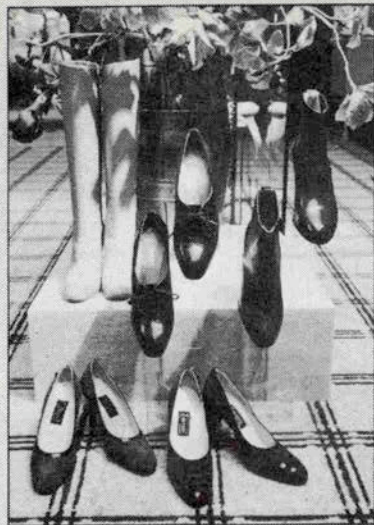
三十年代の後半から輸入品に力を注ぎました。スイスのバリー社からが最初でした。バリーの靴が日本に入ってきたのもその頃からじゃないですか。

――日本人の体型は輸入靴がぴったりというわけでは無いのですし、それはそれで大変だったでしょう。

吉岡 サンプルの製品を見て、それをそのまま入れても駄目なんです。日本人の体型に合った木型を作って、それに合わせて作って貰います。

最初の頃に比べると日本の靴の技術も進歩しましたが





まだ輸入靴にいえるのは「消費者に親切な製品」が多いということですね。デザインだけでなく例えば金具の取り付けや縫製など、とても細やかな配慮があります。

——バリーを始めた頃と比べてお客様はどうですか  
吉岡 やっぱバリーが知られてなかった頃は、何と高い靴や、なんて思われていたようですが、最近は伸びていますね。いい物はいいと分って下さる方が多くなっただらだと思えます。ただ残念なのが、まだ靴の輸入は規制されているんです。ですからこんな靴が欲しいといっ

てこれでも入っていないのがあるんですよ。

——今、扱っておられるブランドは？  
吉岡 紳士物ではバリー、テストニー、モレスキー、ゼニスなど婦人物で、やはりバリー、パツカリ、タベルナ、ブツケリー。バリー以外全部イタリアの靴のメーカーの物です。デザイナーの靴もあります。やはり靴は靴専門のメーカーの物でなくちゃ駄目ですね。はき心地日本人に合った型となるとファッション性だけでは。

靴は今でもデザイン、技術ともにイタリアが最高だと思えますよ。

——さて、この大丸前本店も改装で綺麗にされましたしもうすぐ六十周年ですが、これからの方針というところ。

吉岡 何となく古い店の仲間に入ってきましたが、古くささというのは絶対イヤですね。昔から神戸というとかイカラでモダンだった。神戸らしさはいつも意識しています。

そしてファッションですから時代の流れで変わるのですが、ヨシオカの底流は同じだと思います。いつも良い商品を扱って目先で変えていくということはしたくない決して妥協できない所てありますからね。素材、デザインともに重点を置いた品質主義を守っていきたいです。いい物を置いていけると、お客様も必ずわかって下さいますね。

——最後に、東京にも七店舗ありますが、神戸のお客様に、神戸らしいなというところを感じられますか。

吉岡 神戸のお客様のファッション性は高度だと思えます。特に「はき倒れ」の伝統のせいか、男性も女性も足元だけはすごく凝っているという方が多いようですね。

JEANING  
LIFE  
'80

< 4 >



# 'Xマスにウエスタンを贈ろう

森 秀明

岩崎 和子

〈関西学院大学経済学部1年生  
学生ミニコミ集団「ファンシー・ファクトリー」メンバー〉

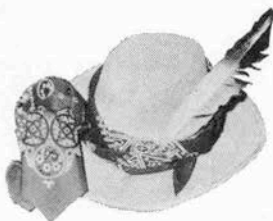
〈ジョイント3F「ウエスタン・ツール」コーナー〉

キャンパスでも熱いウワサの  
ウエスタン・ファッショ

岩崎 いまキャンパスで、人気の  
あるファッションは？

森 プレッピーとウエスタンの合  
作みたいなのをよく見かけるなあ  
例えばファッションジーンズにウ  
エスタンブーツ、それに細手のウ  
エスタンベルト。上はマウンテン  
パーカーかダウンジャケットって  
いうスタイルが流行ってるね。最  
近ウワサの「アーバン・カウボー  
イ」の影響かな、ウエスタンの風  
がキャンパスにも吹いてるよ。  
岩崎 ファッションに敏感な「キ  
ャンパスカウボーイ」をグリーンと  
ひきたてるのが小物たち。テング  
ロンハット、バンダナ、ボロータ  
イ、ベルト、バックル、ベルトボ

ーチ、ジッポーライター、キーホ  
ルダールc。西部の男たちが使  
っていたから、どれも実用的で頑  
丈ね。小物に凝るのは本当の「男  
のおしゃれ」なんでしょうね。  
森 そうだねえ。例えばブレイ



いろんなお洒落が楽しめるバンダナ

なベルトにいろいろなバックルを  
取りかえてみたり、ドレスシャツ  
にボロータイでドレッシーな感じ  
が出るし、シエリフバッジを胸の  
アクセサリーに使ってちよつとラ  
フに……と少し工夫して自分なり

のウエスタンにするのも楽しいと  
思うなあ。もうすぐクリスマスだ  
けどプレゼントにも最適だね。

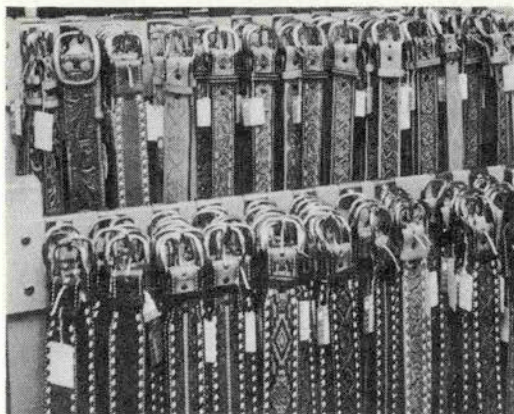
岩崎 森君、ガールフレンドに贈  
るのならハンドメイドのインディ  
アンジュエリーはいいがかしら。  
ターコイズとシルバーの組み合わせ  
が素朴で手づくりの暖かさが伝  
わってくるみたいでしょう。

森 リング、ブレス、ネックレス  
など品数豊富に揃っているから、  
選ぶのが楽しいね。

岩崎 ウォールマスのようなユ  
ニークなものもあるからじっくり  
考えて。インテリアに可愛いイン  
ディアン人形や儀式人形を飾ると  
お部屋にもウエスタンの風が吹い  
てくるから不思議。

森 クリスマスの贈りものはウエ  
スタンツールに決めた！



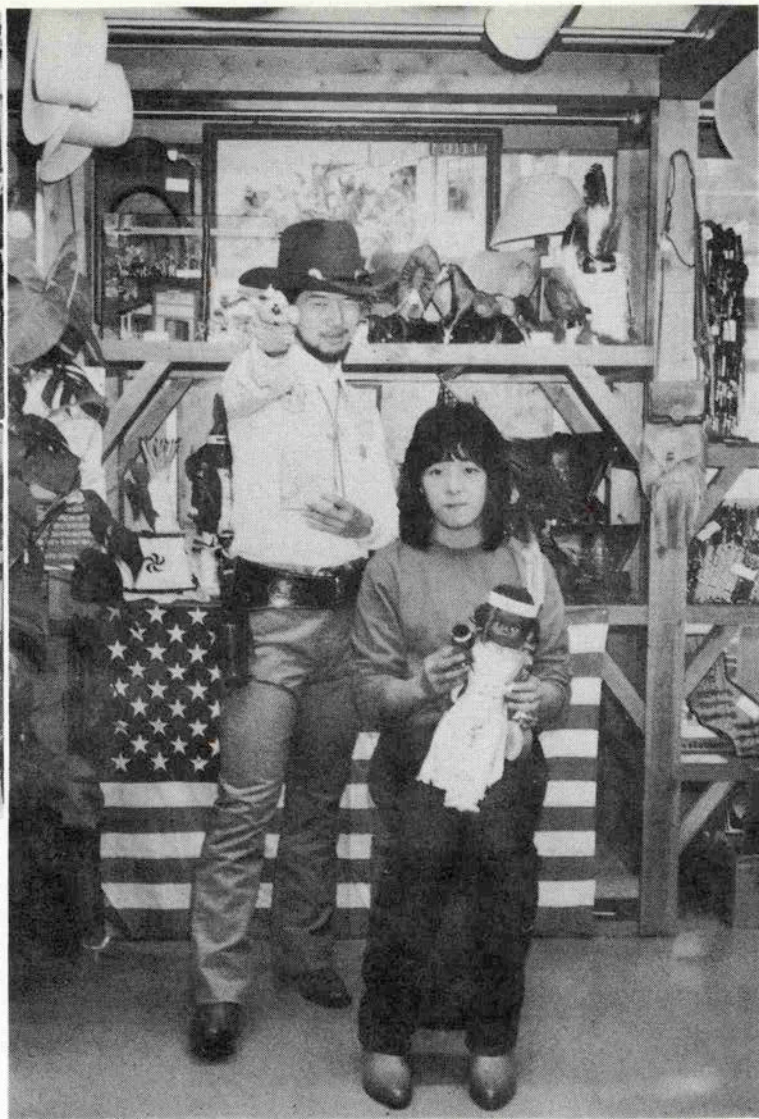


上/ベルトはファッションのきめ手。ジョイント3Fに品数豊富に掛けています。下/ウォール・マスク1,800円より。愉快的なお部屋に置いたら何となく楽しい気分。右/ジョイントのシェリフになりきった森秀明君。ピストルの構え方がカッコイイですね。右はインディアン人形を手にした岩崎和子さん

シーニクライフ・ジョイント  
**jjoint**  
 JEANING LIFE  
 三宮・ジョイント

〒(650)神戸市中央区三宮町1丁目6-18

☎078-321-2046 AM10→PM8 水曜休



# ナチュラルレター (3)



**Natural House**

ナチュラル ハウス 神戸店

元町1番街 078(392)3661

年中無休・10AM～7PM

## 自然派講座 Ⅱ 栄養補助食品の話

現代は「一億総半健康人時代」と言われています。

その原因は運動不足と食生活(栄養)にあるそうです。でも、運動不足はともかく、食物の質量ともに豊かになった現代において、食生活(栄養)に問題があるというのは、ちよつと不思議な気がします。

たぶん、食品の種類も量も豊富にありすぎるために、摂るべき栄養の含まれる食品を選びきれないという現象が起きているのです。その結果、栄養のバランスを失い、栄養が片寄り、そのせいで血色が悪く体が疲れやすい、とか、抵抗力が弱まり病気がちの体質になっていくのです。

栄養のバランスを考えること―それは、食物の豊かな現代であれはこそ、大切なことなのです。

さて、今回のナチュラルレターは、栄養補助食品について。欠乏している栄養分を補う、栄養補助食品をいくつか紹介します。

クロレラ―クロレラは、太陽をいっぱい受ける培養槽で育てられた単細胞の淡水藻です。この藻を遠心分離、乾燥、粉末化し、飲みやすい粒状にしたのが商品としてのクロレラです。その特徴は、ビタミン、ミネラルをきわめて豊富に含む、高たんぱく質食品であることです。そのため、健康食品として注目される前に宇宙食として各国で研究、開発されてきました。

紅花油―動物性油脂に多く含まれる飽和脂肪酸がコレステロールを生成し動脈硬化の原因をつくるのに対し、リノール酸に代表される



ずらり並んだ栄養補助食品



売場担当の渡辺・谷口・中林

不飽和脂肪酸は逆にコレステロールを除く役目を果たします。紅花油は紅花の種を絞って作られ、リノール酸を豊富に含んでいます。胚芽油―胚芽油に多量に含まれるビタミンEには、血管を若く、弾力あるものにし、皮膚をいきいきとさせる栄養効果があります。コレステロールと結合して動脈を硬化させる過酸化脂質の生成を防いでくれるのです。

植物プロテイン―植物性プロテインというのは大豆や小麦から精製した、植物性たんぱく質のことです。特に大豆に多く含まれているレシチンは、血管や心臓を若返らせ高血圧を防ぐといわれます。粉末になっていいるものは水やお湯に溶いて飲みます。

ナチュラルハウスではこのほか高麗人参、梅肉エキス、ローヤルゼリーなどおよそ150種類の栄養補助食品を揃え、専門家の資格を持つスタッフが貴女のおいでをお待ちしています。



★神戸ファッション市民大学OBによるグループ

＜神戸のファッション都市化をめざす＞

# K. F. S. news 55

事務局／神戸市中央区東町113-1

月刊神戸っ子内TEL (078) 331-2246

## ●10月マンスリーサロン

### ワールド研修センター

素晴らしい設備と環境にビックリ

10月24日、念願のワールド研修センターを見学。布引にある9階建て、一体どこで何してるのかなアーと長い間気になっていたものです。気になっていた人は多かったみたい……実に画期的な出席率でありました。いつも出席者が同じ……とかちっとも出てきてくだらないと悲嘆に暮れていた理事たちの、この日程明るい表情は稀では、とまあ、そういう魅惑の研修センターですが、その実態のご報告。

ご案内くださったのは教育課課長の小島登陽子さん。お洒落で知的で素敵なお嬢さん。2～3階は会議室、オーディオ・スライド設備が完備され、フムフム市の教育会館以上の設備ながあります。4～8階は一流ホテル並の宿泊所。なんと8階にはサウナまであるのです。凄いなあと見学者たち恐れ入ってヒソヒソ声。やがて9階最上階の食堂兼休憩室へ案内され、そこで三宮の夜景を眺めながら研修の内容など伺ったのです。

ワールドの製品を

売っている全国の直営店の方たちの研修を目的として作られており、今までに約1,000人の人たちが3泊4日の課程を修められたとのこと。お客様への応対から商品知識、発声練習、夜の親睦パーティまで流石よく考えられたプログラム。中級上級の課程もあるときいてみんな参加したような表情でしたが、残念ながらワールドの直営店（全国津々浦々にあるそうです）の人以外はまだ駄目だそうです。

小島さんやワールドの秘書室からわざわざ駆け参じてくださった平尾実さん、それにビールと美味しいオードブルのおまけまであって本当にありがとうございました。



小島登陽子さん



## ★浦野年彦さん（アトリエCR）

### 第1回目コレクション



11月15日、神戸外国倶楽部で、浦野さん会心のコレクションが行なわれた。東洋紡の嘱託で神戸ドレメの講師もしながら“作りたい”ものを“作りたい”ように作ったものばかり。朝のニューヨークと、雑誌のグラビア頁のサラダからの発想という作品たちは、鮮やかで爽やかな色の使い方が印象的。神戸の色というイメージだ。

ディレクターが朝日放送の中川利久さんというのもまさに「会心」のコレクションの発表。

今回は来春夏物だったが、できればこれからは年に2回ショウを開きたいと意欲満々の浦野さん。

## ★クリスマスパーティー'80

日時／12月20日 6時半より

場所／元町風月堂地下ホール 会費／6,000円

食べて飲んで踊ってファッションショーをして……という恒例我らの豪華なパーティーです。お洒落をしてのご参加を。

## ★タキシードパーティーⅡ

日時／12月6日 6時より

場所／神戸外国倶楽部

会費／10,000円（ディナー付）

フォーマルファッションのパーティーです。男性はタキシード、女性はロングドレスでメリークリスマス。参加ご希望の方はKENTの田中さんまで。

写真はファッションショーより



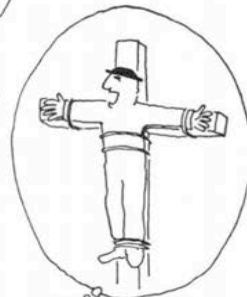
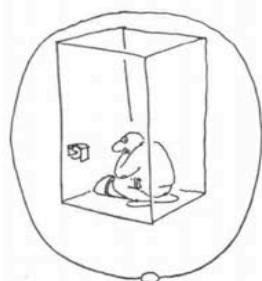
★パントマイムジュンズⅡ

# 愛すべき隣人たち

岡田 淳





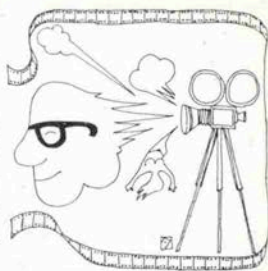


●ふらつしゅ●ばつく●(2)

## フェリーニと安部公房を

見る

淀川長治〔映画評論家〕



フェリーニ監督の「カサノバ」(一九七六)をまた見た。

また見たということは、これを三年まえ、ニューヨークで見たからである。そのときの劇場は静かな落ちついた劇場であった。それでも五人ばかりの下町の兄さん連中が「カサノバ」というわけでボルノ映画のつもりで見にきたらしく初めは声を立てて笑っていたのだが、やがて静かになった。フェリーニの(美術)に圧倒されて笑いが止まっちゃったらしい。

フェリーニのこの「カサノバ」は全巻これまいたく美術ショウのごときのものである。

この「カサノバ」を扱った映画は実は昭和五年に、なぜか「ロベルト」という邦題で東和の配給をもって日本公開されたことがある。それはフランスのシネ・ロマン社の一九二七年の作品でこのときのカサノバにはイワン・モジューヒンが扮していた。監督はアレキサンデル・ヴオルコフ。もちろんまだフランスではサイレント映画末期のころである。昭和五年の日本といえばドイツ映画の「アスファルト」や「帰郷」が封切られていたころである。そしてこのイワン・モジューヒン主演のカサノバ映画も当時のことゆえカサノバ艶情史とも称するおおまじめなコスチューム・ブレイであった。私の印象はこの映画のファースト・シーンの花火のところだけである。どうもたいした映画ではなかったと思う。

さてフェリーニの「カサノバ」は、のぞきのぬれ場、なみいる見物のなかでの二台の寝台における競争、老女との行いに困ったカサノバが若い女を目前にはべらせその

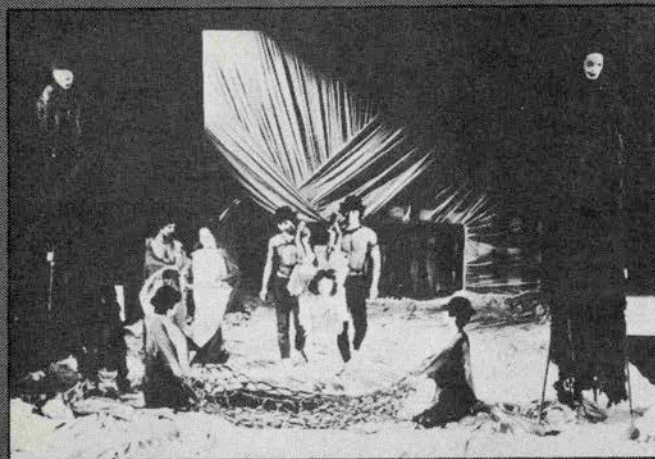
若い女の肉体のうごきを見つつ老女とコトをすます…といったボルノごみの連続でありながら、その舞台セツトその男女の衣裳、それよりもカサノバ(ドナルド・サザランド)はじめ登場者すべての俳優のメイキャップを凝りにこり日本でもうせばあの写楽の芝居絵の面白さをしのばせた。

ジョヴァンニ・ジャコモ・カサノバ(一七二五—一七九七)。イタリアのベニスのプレイ・ボーイ。ローマ、ナポリ、スイスと女をあさり、ベニスの牢獄にほりこまれ、それを脱出した、その彼の長篇(回想記)をフェリーニも映画にそれを移しつつも、しかもフェリーニのカサノバ映画にしをわせた。二時間三十四分さながら舞台の美術ショウを見る華麗。もちろん音楽はニーノ・ロータ。そして撮影は「サテリコン」のジョゼッペ・ロトゥンノである。

カサノバはつねに小箱を持ちそのなかに黄金の鳥を入れている。そしていざのときその鳥を枕べに置くのだが、カサノバの性愛がみなぎってくるやその鳥は金の翼を。タバタとひろげ首を左右にふりその首は長く伸びちぢみはじめる。まことにエロティックである。そのエロティックを十八世紀の時代色に塗りこみ、さらにフェリーニどくとくの幻覚美のなかに誘いこむ。

イタリアはイタリアン・リアリズムを生んだ国なのにそのいっぽうフェリーニのようなフアンタジストを生んだのはイタリアがオペラの国であり仮面劇の国であるところからフェリーニのような幻覚美術映画作家が出たの





安部公房の「仔象は死んだ」



フェリーニの「カサノバ」

であろうか。

×

安部公房が脚本、監督、音楽まで担当した五十四分の「仔象は死んだ」(一九七九)を見る。前衛劇である。私は若い人たちがよくこの(前衛劇)なるものを上演しているのを半ば覚悟して見物にゆき途中にいたり逃げだした苦い経験がある。前衛はよほど根がしっかりとおりらぬと駄目だ。ところが本物となるとショックを受ける。このショックは(発見)と(純粹)の楽しみに酔えるというショック。アメリカ人でフランスで名をあげた前衛映画作家マン・レイの「ひとで」(一九二八)やフランスのジェルメーン・デュラック女史の「貝殻と僧侶」(一九二八)などがそれであった。またモダン・ダンスのアメリカのマーサ・グラハムの前衛舞台を見ているときに受けるショック。

これを私は安部公房の「仔象は死んだ」に衝撃ともいいたい感激をもって受けたのであった。テーマは人間であり人間永遠の悲劇であり人間が人間を裁く悲劇である。ととてもいいが、この五十四分は舞台美術の陶醉それにつきる。ダンスであり詩でありマイムであり動く絵画であり(光)と(色彩)とのメロディと見てもいい。

舞台一面の大きな敷きつめた白布がありとあらゆる形(動く形)を見せる。それは波のうねりとなり海底となり白雪にも白い雲の動きにも変化する。美術は安部夫人の手になるのだがこれがニューヨークの舞台の前衛劇をはるかに越えるばかりである。アメリカ各地を上演し絶賛を受けたというのは当然である。

これは映画として作られたものでなく舞台上演をそのままビデオにとった十六ミリである。東京では西武百貨店の劇場で公開上映されるそうだが、神戸でも上映を持ちたいものである。